

特集
学びを、つなげよう。



message

ご挨拶

学校法人 聖学院
理事長
清水 正之



プロフィール

1947年横浜市生まれ。東京大学文学部倫理学科卒業後、同大学院人文科学研究科倫理学専攻修士課程修了。同博士課程単位取得退学。博士(人文科学)。2008年聖学院大学人文学部教授に就任。2015年聖学院大学学長に就任。2017年学校法人聖学院理事長に就任。

2018年に中長期ビジョンを策定してから2年が過ぎました。これまで「神を仰ぎ 人に仕う」という精神のもと「誰一人取り残さない」世界の実現を目指し、SDGsやダイバーシティ&インクルージョンの理念を教育の現場に展開して参りました。昨年は中長期ビジョンをさらに一步進めることができたと思っております。

中長期ビジョンは6つの経営アクションプランから成り立っています。①教育 ②財政 ③施設・設備 ④人材組織 ⑤ICT ⑥広報です。どれもが軌道に乗り始めています。

教育に関しては大学から幼稚園まで改めて建学の精神と教育理念を見直し、関係各位より一層理解を深めることができました。財政に関しましても大学を筆頭に学院全体で大きく入学者数が増加し、一步前に進む足がかりを得たと考えております。施設設備に関しても聖学院中高、女子聖学院中高の体育館を検討する委員会を発足しました。また大学でも将来的キャンパスビジョンについての話し合いが始まっています。組織は、学院発足以来初めてとなる大きな見直しを行い、より効率的に働ける体制で挑んでいます。一人ひとりが働きやすい職場を目指し、労働環境改善も行なっています。教育現場での改善という意味で最も重要なのがICTです。「一人一台、いつでもどこでも学べる環境」を目指し、各校で電子黒板やタブレットの整備を進めています。広報に関してはPRという観点を重視し、全学横断型の広報センターを設置しました。より戦略的に広報を展開できるようになり、学院外部はもちろん内部の組織間交流にも有効に機能しています。

そういった動きの中で、教職員の中から新しいプログラムやアイディアが次々出てきています。象徴的なのは、21世紀型教育の実践を軸として、各校の連携を強め、総合学院として一貫教育を魅力ある特色とすべく立ち上げた「法人・教育デザインプロジェクト」です。これまで各校個別で行なっていた「SDGs」「英語教育」「ICT教育」の3テーマを聖学院中高、女子聖学院中高、聖学院小学校の駒込3校で一体となって行います。各校の優れた点を可視化しフィードバックすることによって、3つのテーマをより強化できます。小中高の教員間の交流も活性化しますし、まさに中長期ビジョンの理念に適ったプログラムです。

地域貢献とグローバル化というのも、引き続き中長期ビジョンの視野に入っています。

地域連携に関しては、大学を中心とした岩手県釜石市の支援活動があり、このボランティア活動が評価され釜石市長

から表彰を受けています。また小学校での英語教科化に伴い、大学が培ってきた小学校英語教育のノウハウを教育委員会を通して地元に還元しています。大学院心理福祉学研究科で公認心理師対応カリキュラムがスタートするのに伴って心理相談室を開設し、地域の方々の悩み事の相談に応じます。政治経済学科は市民向けのSDGs講演会を継続して行なっていて、たくさんの賛同の声をいただいてます。

グローバル化において語るべきは、何よりも留学生です。聖学院大学では多くの留学生を受け入れていて、かつその留学生が地域のお祭りに参加するなど、熱心に地域貢献の一翼を担ってくれています。さらに今年度、台湾の長栄大学とダブルディグリー協定を結びました。4年間のうち2年間ずつ双方の大学に在籍することで両方の大学の学位が取れるというものです。アメリカにもダブルディグリーの協定校はありますが、アジアにも協定校を持ったことによってグローバル化がさらに飛躍したと言えます。

聖学院中高と女子聖学院中高では、海外の大学進学者が増えています。その根底には、授業を通して触れた社会課題の解決に貢献したいという生徒たちの思いがあります。これは聖学院らしい進学理由だと思います。ここにも教育理念の見直しの成果が見られます。幼稚園では最近、国内で増えつつある外国の文化をもつ子どもたちを積極的に受け入れています。そして文化の違いを受け入れる感受性を育んでいます。

中長期ビジョンのキーワードの一つとして教職協働があります。大学や学校が個性を持つためには教職員が1つのチームとなることが重要です。単に流行の言葉ではなく、聖学院らしい教職協働を追求していきたいと思っております。これは働き方の問題でもあり、同時に「神を仰ぎ 人に仕う」という他者への関わりを重視する理念もあります。教職協働が様々なプロジェクトの中で機能し始めています。よりよい学院を目指していくという一体感ができてきたと思います。中長期ビジョンの中間的な大きな成果です。

いつもASFを通して学院の新しい動きを見守ってくださっている保護者、卒業生、後援会の皆様そして教職員。聖学院は今確かな手応えを感じつつ新しいステージに向かっています。これもひとえに皆様のご理解ご支援あってのことと感謝しております。今後とも奢ることなく教育改善、自己革新の努力を続けてまいりますので暖かく見守っていていただければ幸いです。時節柄ご健康に十分ご注意ください。

CONTENTS

01 ご挨拶

03 &Talk [学びを、つなげよう。]

07 focus-リーダーズメッセージ
[聖学院みどり幼稚園]

08 focus-リーダーズメッセージ
[聖学院小学校・幼稚園]

09 focus-リーダーズメッセージ
[女子聖学院中学校・高等学校]

10 focus-リーダーズメッセージ
[聖学院中学校・高等学校]

11 focus-リーダーズメッセージ
[聖学院大学]

13 在校生の活躍／卒業生の活躍

15 新任教職員の紹介

18 Seig NEWS

21 Our Mission

31 聖学院歴史探訪

学び



山本 享

聖学院中学校・高等学校教諭
保健体育科

レゴ®シリアルスプレイ®メソッドと教材活用の認定
ファシリテーター。保健体育を担当。数学教諭の
免許も持つ。学校内外で価値創造型・課題解決
型PBLを実践。研究テーマは教育格差と地域活
性化。



この鼎談を動画でも
見ることができます。

誌面に収まりきらなかった話などもあります
のでこちらも是非ご覧ください。



T
&
Ta

VUCA時代とは、何が起こるかわからない、先の予測が困難な時代を意味します。先頃発生した新型コロナウイルスは、まさにVUCAを象徴するような出来事です。

このような時代に対処していく力として聖学院中学校・高等学校（以下聖学院中高）では、PBL（Project Based Learning）を活用し、課題解決・価値創造のプロジェクトを展開しています。また女子聖学院中学校・高等学校（以下女子聖学院中高）ではICT教育推進委員会を昨年11月に発足。常に変化し続ける世の中だからこそインターネットツールのスキルだけではなく情報とコミュニケーション能力も身につけられる教育へと改革を始めました。聖学院中高で上記プロジェクトをマネジメントされている山本享先生と女子聖学院中高、ICT教育推進委員の川村明子先生に加え、聖学院大学のブランディング事業「&Seigプロジェクト」に携われている株式会社ロフトワークの柳川雄飛さんにもご参加いただき、5月にオンラインでのトークイベントを行いました。

聖学院中高のPBLの紹介

山本 今回お話しさせていただくテーマがPBLです。プロジェクトベース ドラーニング（Project Based Learning）と言い、プロジェクトを体験しながら学んでいく学習です。聖学院中高では様々なPBLがあるのですが、その中の一つ、中3の糸魚川農村体験学習という学校行事におけるPBLをご紹介していきます。糸魚川農村体験学習は今年で35年目をむかえる伝統行事です。大変お世話になってきた糸魚川に何か恩返しをしたい。ここが今回PBLという形を取り入れたスタート地点になっています。

具体的には糸魚川市の人口減少の課題に取り組み、一度来た人にリピートしてもらうガイドブックを作るのがゴールです。ゴールは設定しますがそれ以外の施策も実施しました。例えばガイドブックの印刷費をクラウドファンディングで集めたり、SNSで広報したりマスコミにプレスリリースを送ったりしました。どれも最初は教員が関わりますが、あとは生徒に運営を任せています。ガイドブックの制作がゴールですが、裏テーマとしては、プロジェクトを通して「できる」というマインドを育成していく 것입니다。それが最終的な私たちの成果なのかなという風に思ってます。

柳川 成功体験を作っていくことなど興味深いキーワードがたくさんあります。後ほど詳しく伺わせてください。

を、つなげよう。



川村 明子

女子聖学院中学校・高等学校教諭
数学科

ICT教育推進委員会メンバー。イギリスの大学院に留学中「教育政策とリーダーシップ」について研究。教育を社会科学として捉える諸外国の事例に学ぶ。前任校でもICT教育推進を担当し、リーダーシップ育成や研修の組み立てに貢献。



柳川 雄飛

株式会社ロフトワーク
プロデューサー

様々な企業や組織の課題を解決すべく、関わる人の主体性・創造性を引き出すプロジェクトやコミュニケーションデザイン得意とする。2016年より聖学院大学の広報部との取り組み「&Seig Project」の企画に継続的に携わる。

今日はオンラインで
お届けします

11K

女子聖学院中高のICT教育推進委員会の紹介

川村 私の方からは女子聖学院中高の取り組みについてご紹介させていただきます。私は昨年度女子聖学院中高に着任し、同年11月に立ち上がったICT教育推進委員会（以下ICT委員会）の主要メンバーを務めさせていただいている。

ICT委員会の活動の一つとして女子聖学院中高におけるICT教育のビジョン策定があります。ICTはあくまでツールなので、普段の教科指導や教育活動の中にそのツールをどう埋め込んでいくのかが重要です。その柱となるのがICTのビジョンです。今、新型コロナウイルスの影響で、授業はオンラインになっています。オンライン授業を始める上でもビジョンが必要でした。日常的な活動としては、メンバーが実践したICTの活用例を共有したり、他の教員からの質問に対応したり、逆に教員が個人レベルで授業に取り入れている活用方法を教えていただいたりしています。集まった情報の共有手段としてニュースレターを作っています。ICT活用について考えていただく教師研修会も行なっています。

今、特に主要5教科の教員は週5日、毎日オンラインで授業を配信しています。もともと女子聖学院中高はICT環境の土台が整っていましたが、それにしてもこのペースで授業動画等を作成されているのはすごいことで



聖学院中高のPBL型年間行事「糸魚川農村体験」での田植えの様子と生徒が作った糸魚川市のガイドブック



女子聖学院中高のICT環境に特化したフューチャールームと教員間でICTの情報を共有するためのニュースレター

す。本当にどの教員も生徒のために頑張ってくださっています。オンライン授業によって学内の情報活用能力が一気に活性化したと思います。

柳川 ありがとうございました。コロナの影響から、オンライン授業を進めて行かなければならぬ。学びを止めないようにする動きが広がっていますが、先生方が積極的に取り組まれていて、更に先生方が学んでいっている所が印象的でした。



聖学院大学のプランディング事業に携わっているプロジェクトマネージャーの柳川さん。今回のトークイベントではファシリテーターも務めていただきました。

ロフトワークと聖学院大学の「&Seigプロジェクト」

柳川 私の方からは、聖学院大学と弊社のプランディング事業「&Seigプロジェクト」をご紹介しようと思います。元々大学には「面倒見の良い大学、入って伸びる大学」というキャッチコピーがありました。これに対する受験生や社会の印象が、大学が本来目指したい所とズレているというのと、2017年の4月ごろに大学の広報が抱えていた課題でした。同時に、翌2018年の創立30周年を機に、きちんと大学の魅力もアップデートしようという学内の要望があり、ブランド力向上委員会という教職員横断型の組織ができました。この委員会と弊社が連携してプランディング事業が始まり、「一人を愛し、一人を育む。」というタグラインができました。

次に新しいタグラインを具現化するための企画がいくつか生まれました。特徴的だったのはヴェリタス祭で行った展示です。来場者に普段の買い物物で渡されるレシートを持っていただき、一人ひとりの買い物物をした時の思い出や記憶を書き起こしてもらって作品にしました。学生や卒業生および地域の方々が集まるヴェリタス祭で、一人の小さな物語に着目する企画を行うことで「一人を愛し、一人を育む。」という大学の姿勢への理解と興味を深めることができました。

昨年4月からはもう少し学内の魅力を掘り下げたいということで、教職員の方々を巻き込んで、コンテンツを作り、それをマガジンやエキシビション、オリジナルで作ったWebサイトなどから発信することになりました。

私からの紹介は以上です。ここからはトークセッションということで先生方にいろいろ伺っていきたいと思います。



ヴェリタス祭で開催されたレシートの展示。多くの来場者が訪れ、大盛況でした。右は「一人を愛し、一人を育む。」を体現する「& Seig」の広報ツール「& Seig Magazine」

PBLのマネジメントについて

柳川 山本先生に伺います。PBLの難しい部分と効果的な部分は、どんなものがありますか？

山本 初期段階の問題として教員自体に、「たくさんの知識がないとプロジェクトってできないよね」というマインドがありました。学内で話し合われ、そこを変えるために、まずはプロジェクトをやってみて足りないものを学んでいくことになりました。「行動が先で、知識は後」と。また中学生の男子はやりたいことがたくさんあるのにやらせてあげる場がありませんでした。そこで生徒がやりたいことを全てやらせてみようということになりました。学校が許容する線引きを外して生徒のやりたいことを全部やらせたら、教員は大変ですが、生徒の学びはすごく増えました。

柳川 なるほど。そのプロジェクト・マネジメントの観点でいくと、やりたいことが増えるのはポジティブだと思いますが、そのコントロールはどうされていますか？

山本 実際の流れでご説明すると、例えば糸魚川農村体験学習では、教員が用意したプロジェクトは、ガイドブックの作成のみです。その他は生徒たちがやりたいことを出しあって、自主的にプロジェクトにしたもので。そういう試みでした。17人の生徒たちがメインになり、プレストしてチームを募って進めて行った結果、最初は51個プロジェクトができました（笑）。そこから自分たちでやってみて「これはダメだね」と精査していく、最終的には7つに絞りました。その中で最後まで生き残ったのが3つです。この絞り込みで、話が活性化しなければ教員がファシリテートする予定で、そういうコントロールは考えていました。でもその必要はありませんでした。生徒が自分たちで「これは現実的には難しい」とか「協働者がいない」とか考えていくのも良い学びかなと思います。

柳川 生徒にできる限り任せる、信頼して預けていく、という点が伺っていて印象的でした。



「学校が許容する線引きを外して生徒のやりたいことを全部やらせたら、生徒の学びはすごく増えました」と語る山本先生

ICT普及のハードルとICTビジョンについて

柳川 川村先生に伺います。ICT教育の一歩目としてハードルとなったものはありますか。

川村 私が女子聖学院に入ったころ電子黒板やプロジェクター、iPadを使っている教員は限定的でした。最初のころ色々使ってみたけれども不具合だとスマーズにいかないところがあって、やっぱり従来型の授業形式に戻っているという先生もいらっしゃいました。これが言ってみれば一つのハードルだったと思います。ただコロナの影響で授業をオンライン化する必要性が生まれ、教員の皆さんがどんどん使いこなすようになっています。1か月2か月くらいでのすごくスキルアップをしています。

柳川 ICT教育推進委員会もある種プロジェクト型なのかなと思うのですが、そのプロジェクトチーム自体は有志の先生方で組まれてるのですか。

川村 職員会議で人員募集の呼びかけがあった後、エキスパートでは全然ないのですが、私もそれなりに経験があったので、私から主要5教科の若手の先生に声をかけさせてもらい、メンバーが揃いました。

柳川 今までの学校の取り組みの中ではあまりなかったチャレンジだと思います。チームの方々の中で大切にしている思いや、向かっている目標などはありますか？

川村 そうですね。もともとすごくクリエイティブな授業をされてる先生方の集まりで、好奇心も強く、「これやったら面白いんじゃないかな」「こんな機能がある」など、話し合いではどんどん意見がでてきました。その中で「対話的クリエイティブ」というキーワードが出てきて、ちゃんと自分事として考えていく、常に情報共有しながら学び続ける、その視点を大事にしようと話がまとまりました。それが女子聖学院のICTビジョンになっています。ミーティングに限らず何か見つければすぐに共有していましたし、仕事の後も何時間も話したりしていました。そういうコミュニケーションの豊かさが結果的に生徒たちに還元されると思いますし、様々なアイディアが出てとても充実していました。



「ICTに関する議論の豊かさが生徒の学びに還元されると思います」と語る川村先生

PBLの課題設定と情報収集の重要性について

柳川 PBLで、課題はどう情報収集して、どう設定してますか？

山本 2つ軸があって、ひとつは自分の中で感じた身近な疑問とかです。これって本当に正しいのか？ そういった疑問が湧いた時に課題設定して、生徒に投げかけるプロジェクトを起こします。情報収集の方法としてはそれこそインターネットであったり、同僚との会話、外の社会人の方とのつながりなどです。

もう1つは、もっと雑で、問題定義をしません。すごくやりたいことから発信します。たとえば「糸魚川を、良い所だし盛り上げたいよね」くらいで生徒に投げかけます。じゃあ、どういう方法があるか何ができるかなどゼロベースでのアイディア発想をします。自分たちで問題を発掘する。そのための材料探しから、生徒で意見を出し合って考えるというやり方です。

柳川 川村先生はいかがですか？ 情報収集で何か工夫されてることはありますか？

川村 先ほど山本先生が「社会人の方とのつながり」とおっしゃっていましたが、私もそれはすごく大事だと思っています。メディアでも日本の学校は情報活用能力が遅れていると報じられています。私も海外で勉強した際にその差を感じました。学校の中にいても社会の変化に敏感になることは大事です。そのため海外のニュース番組をチェックしていますし、色々な国に友人がいるのでインターネットで情報交換もしています。

新型コロナウイルス収束後と今後の展望

山本 聖学院中高でもコロナの影響によって先生方のICTの活用が進ん

でいます。川村先生は、コロナが終った後、授業はどういう形になっていると思いますか？

川村 本当にそれは大きな課題です。今は教員だけではなく、生徒も学び方、学ぶ方法について考えたり工夫していると思います。それについては教員がいかにうまくサポートしてあげられるかが問われると思いますが、生徒の学びのスタイルに大きな変化が起こっています。対面の授業に戻った時、それまでの学びが途切れないよう委員会のメンバーと考えていきたいと思います。どういう授業の形がいいのか、まだ結論は出ていませんがとにかく途切れないように、できあがってきているものをうまく使っていきたい、その気持ちは強く持っています。

柳川 今回お二人の話を聞いていて強く思ったのは、生徒や教員のやりたいこと、情熱が向いていくところをきちんと軸に据えてプロジェクトを推進されているということです。だから行動が成功体験になり、自分ごととして深まるんですね。これから学びのあり方としてとても大切なことだと感じました。

これからお二人が取り組んでいきたいことを伺えますでしょうか。

山本 問題解決できる生徒は、これまでたくさんいました。そういう生徒たちは教員に対して次の課題を求める傾向があります。「先生、次の目標をください」「先生、次どうしたらいいですか？」。本当に自走していく生徒とは、自分から問題提起をして、「先生、実は今こんな話をしてますよ」と報告してくれる生徒だと思います。聖学院中高のPBLを、そういう価値創造できる生徒育成にしていきたいと思ってます。また様々な格差に目を向けて解決していけるような、ソーシャルビジネスに取り組んでいける生徒を育てていきたいです。

川村 ICTに限らず人生100年時代を迎える、キャリアに関しては、ずっとところに勤めるということもなくなっています。常に学び続けて、その中で自分を変容させながらよりよい社会に貢献していく認識が必要です。生徒たちは自分で学びを調整し自分に合った形で取り組んでいく、そういう姿勢やスキルを身につけていって欲しいです。それをICT担当の立場で実現していきたいと思います。

(取材日／2020年5月)

※VUCA(ブーカ)とは

4つの単語(Volatility[変動性]／Uncertainty[不確実性]／Complexity[複雑性]／Ambiguity[曖昧性])から頭文字をとって作られた単語であり、現代のカオス化した経済環境を指す言葉です。一言でいうと「予測不能な状態」を意味します。VUCAはもともと1990年代にアメリカの軍事領域において用いられてきた言葉で、昨今、経済、企業組織、個人のキャリアにいたるまで、ありとあらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にあります。そんな中、2010年代に入って以降、世界の経済界各所で「VUCAの時代」が到来したといわれるようになりました。

(出典: BizHint 用語解説 VUCA <https://bizhint.jp/keyword/40037>)

※プロジェクトマネジメントとは

「プロジェクトをマネジメント(管理)すること」を意味します。プロジェクトマネージャーの任務とは、計画、進捗、作業系統化、コスト、リソース(人、物)、時間、リスクといった制約条件を管理しながら、プロジェクト完了までチームを効率的にリードしていくことです。かつては、ペテランの勘など属人的な要素でプロジェクトが運行されてきました。現在はPMBOK(Project Management Body of Knowledge・プロジェクトマネジメント知識体系ガイド)という、プロジェクトマネジメントの知識を体系的にまとめた参考書のようなものを用いておこなうのが一般的となりました。

(出典: TECH CAMP ピックアップ <https://tech-camp.in/note/pickup/65590/>)

focus (学びを、つなげよう。)

学長・校長・園長からのメッセージ



欅、百合の木、クヌギの大木がそびえる園庭では子どもたちが縦横無尽に走り回っています。



(上)木登りのほか、果実の収穫やウサギの世話など自然豊かな環境ならではの経験ができます。
(下)夏にはみんなで水遊び。年長の子が年少の子のサポートをして人との関わりも学んでいきます。

神さまの愛の中で

聖学院 みどり幼稚園



山川 秀人 園長

1989年より聖学院大学・女子聖学院短期大学学長秘書、その後学長室長、学務部長、総務部長、人事部長等を経て2010年より統括総局長。2013年聖学院大学附属みどり幼稚園(現、聖学院みどり幼稚園)副園長、2014年より園長。2018年からは事務総局長を兼務。

今私たちは新型コロナウィルスの拡散という困難な状況に直面しています。みどり幼稚園は広い園庭をもち、さらにはその保育形態などから比較的3密を回避しやすい環境にあり、3月中は通常保育を行い無事卒園生を送り出すことができました。しかし、4月以降も感染拡大が一層進む中で、毎日新しい展開に翻弄されながら入園式や始業式は行えましたが、緊急事態宣言によって休園せざるを得ない状況となりました。現在は、国中あげての自粛により次第に収束に向かいつつある状況ですが、今回の騒動はこれから私たちの生活や教育に大きな影響を残すと言われています。

おそらくそう遠くないうちに緊急事態宣言は解除され、幼稚園の休園措置も解かれることになるでしょう。小学校以上では学習の遅れを懸念する声も大きくなっていますが、それ以上に、幼児期における自然との触れ合い、家族以外の人たちとの関わりや社会体験(集団活動)など、人間形成の基礎が培われる大切な機会が失われかねないことによる影響が心配されます。勉強はできるが人の心が分からない人、独りよがりで他人と協力しようとしない人、指示待ちで自ら問題の解決をしようとしない人。幼児期に求められる非認知的スキルの獲得は大人になってからでは難しいと言われているからです。知的な学びはこれからいつでもできるでしょう(受験などは別の問題です)。しかし、この時期の子どもたちにとっては経験こそが大切な財産なのです。新型コロナウィルスの影響により、できるだけ人と人が接触しないことが推奨され、社会における人同士の連携や関わり方が変わっていくとするならば、人間らしさを涵養する幼稚園教育をこれまで以上に大切にしたいと考えています。元気に広い園庭を駆け回る子どもたちの笑顔が再び戻ってくるよう切に祈ります。

(原稿執筆／2020年5月20日現在)



聖学院小学校・幼稚園では毎日礼拝の時間を設け、祈ることの意味を学んでいます。



(上)同じ敷地内にあるからこそ幼稚園児と小学生が交流できます。
(下)各学年の児童が一緒にお昼を食べるスクールランチ。年齢の違う子どもたちが一緒にお昼を食べることで、年上の子から学ぶことも、年下の子のサポートを通して自らが気づくことができます。

聖学院 小学校・幼稚園



佐藤 慎 校長・園長

1979年より学校法人聖学院において教鞭をとる。女子聖学院中学校・高等学校教諭(社会科)、聖学院小学校教諭を経て、1990年聖学院アトランタ国際学校の開校に携わる。2008年聖学院小学校教頭。2012年聖学院幼稚園園長。2017年第11代目聖学院小学校校長として着任(園長兼務)。

自分のためだけでなく、他者の為に祈ること

友だちと一緒にできることがある。同年齢や異年齢の人たちと一緒にできることを大切にして教育活動、保育活動を行ってきました。けれども、新型コロナウイルス感染症が広がる中で、3月から休園、休校を余儀なくされました。卒園式、卒業式こそ規模を縮小して行うことができたものの、始業式、入園式、入学式は行うことができないまま、この原稿を書いた5月下旬の時点では休園、休校が続いている。

聖学院小学校では5月の連休明けからWEB会議システムのZOOMを用いて、学年ホームルームを始めました。その初日、ホームルームのホストを務める教員が待機する子どもたち全員の入室を許可した瞬間、子どもたちの歓声があがりました。一年生こそ初めて見る教員や友だちの姿に緊張している子もいましたが、二年生以上のホームルームでは久しぶりに会う友だちや先生の姿を見た瞬間、笑顔があふれ、大きな声で友だちや先生の名前を呼ぶ姿がありました。友だちや先生が一緒にいることの大きさを、改めて強く感じました。一時も早く幼稚園、小学校の日常が戻ってくることを祈る毎日です。

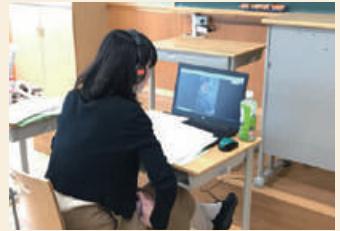
そのような中でも子どもたちが幼稚園、小学校で毎日大切にしてきた祈ることを続けていることを知りました。

子どもたちから「新型コロナウイルス感染症のために苦しんでいる人のために毎日お祈りしています。」「お医者さんや看護師さんのために祈っています。」との声が寄せられました。子どもたちは休園、休校中も自分のためだけでなく、他者の為に祈ることを忘れずに続けているのです。これからも、どんなときでも、祈ることを忘れない幼稚園、小学校であり続けたいと思います。

(原稿執筆／2020年5月20日現在)



女子聖学院中学校・高等学校の校舎



(上)学校と繋がっているという実感を少しでも持つてほしいという観点から担任との個別面談をオンラインで実施しています。
(下)4月から授業を動画でオンライン配信しています。生徒も授業の受け方に慣れてくれましたし、先生方も動画作成のスキルが格段にアップしています。

女子聖学院 中学校・高等学校



山口 博 校長

日本基督教団大宮教会伝道師・内灘教会牧師。北陸学院中学校・高等学校・短期大学にて教鞭をとる。英国留学を経て酪農学園大学(北海道)に着任、副学園長を務める。2007年、母校である聖学院中高の校長に就任。キリスト教センター所長、副院長を経て、現在は学校法人聖学院院長・女子聖学院中学校・高等学校校長を兼務。

近視と遠視と永遠と

現在のわたしは、近くの文字が見えなくて苦労しています。遠視でしょうか。世間からは老眼と言われています。わたしがメガネをかけ始めたのは18歳の時でした。近視眼用です。年齢によって物の見え方が変わる。当たり前ですけど最近は身に染みて感じています。

過去のわたしは、聖学院中高時代に通っていた教会学校の先生から「君たちは近視眼的なものの見方をしてはイカン。人生はもっと遠くを見ながら生きて行かなければダメだ」と聞かされていました。中高生時代は得てして目先のことしか見えていません。今から思うとその先生は聖書に書かれている「永遠を思う心」旧約聖書コヘレトの言葉3章11節「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない」を指していたのではないか、と思われます。

未来の世界はどうなるのでしょうか。新型コロナウイルス禍の只中に生活するわれわれは誰でも考えるのではないでしょうか。近視眼的に考えては悲観的になります。遠い先を見なければなりません。更に悲観的になると云うかもしれません。自死の数も増えたと残念なニュースも伝わってきます。どうしたら良いのでしょうか。

聖書は「何事にも時があり」と語ります。Providence「摂理」という言葉は、ギリシャ語のπρονόια「ご配慮」からなり、関係するラテン語ではpro-videre (forward-vision) 「前方-見る」となります。即ち神様はいつも先を見越しておられるのです。そこには主なる神様の恵みが用意されています。ノアの洪水の後に虹があったように、約束のしるしである希望を見るのです。希望を失うことがなければ、新しい一步を踏み出せます。

(原稿執筆／2020年5月20日現在)



聖学院中学校・高等学校の校舎



(上)オンラインでの個別相談の様子。来校による学校説明会はできなくなりましたが、4月からオンラインで毎週学校説明会か個別相談を実施しています。

(下)動画によるオンライン授業のラインナップ。先生方の意欲的な授業動画作成によりすでに900本を超えています。

聖学院 中学校・高等学校



角田 秀明 校長

埼玉大学教育学部(中学校課程)卒業後、1974年より聖学院中学校・高等学校教諭(英語科)。一時休職し、米国ワシントンD.C. ジョージタウン大学大学院応用言語学修士課程に入学、同大学院修士課程修了後、聖学院に復職。以来、高等部長を16年間、副校长を3年間務め、2016年に41年間在職した聖学院を退職。その後は学校法人聖学院の理事を務め、2017年第12代聖学院中学校・高等学校校長として着任。

「雄々しくあれ、心を強くせよ
主を待ち望む人はすべて。」（詩編31:25）

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月2日から学校休校措置がとられてから5月末で3ヶ月になります。予想以上に長く続く不安な時期に苛立ちを感じた人も多いのではないでしょうか。待ち続けるうちに、失望を覚え、不安になります。そんな時、自分のことしか考えられず、神に目を向けることを忘れてしまいそうになります。待ちくたびれてきたら、上を向いて、そして振り返ってみましょう。神がこれまであなたにしてくださったことを思い出しましょう。

この間、私たちはオンライン授業動画の作成と配信、生徒諸君からの質問への応答、課題の回収と確認などに取り組んでまいりました。オンライン授業は、ほとんどの教員にとっては経験したことのない領域でしたが、試行錯誤しながら挑戦し、互いに教え合い、学び合いながら、兎にも角にも生徒に確実に授業動画を届けることができたことを嬉しく思っています。校長として、全教員の教育にかける熱い思いと努力を高く評価したいと思います。また、今日までの取り組みがここまで継続と進化を遂げることができたのも、生徒・保護者および教職員のご家族のご理解とご協力の賜物と感謝しています。

外出自粛要請の中、本校で学んだ俳優の志尊淳さんとミュージシャンの宮崎歩さんが、「きぼうのあしあと」という曲を制作してくださいました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために戦っている一人ひとりを励ます力強いメッセージが込められています。YouTube等でお聞きになってください。この試練の中にあって、とても元気づけられます。それでは、お互い、再び会える日を楽しみに待ちましょう。

(原稿執筆／2020年5月20日現在)



聖学院大学の教室



(上) 試練の時だからこそ礼拝を受けられるようにオンラインで全学礼拝を実施しています。
(下) 今年から全国の大学で入試制度が変わります。不安な受験生に少しでも情報を届けようとオンラインで入試説明会を実施しています。

聖学院大学



清水 正之 学長

1947年横浜市生まれ。東京大学文学部倫理学科卒業後、同大学院人文科学研究科倫理学専攻修士課程修了。同博士課程単位取得退学。博士(人文科学)。2008年聖学院大学人文学部教授に就任。2015年聖学院大学学長に就任。2017年学校法人聖学院理事長に就任。

希望を抱いて

新学期の授業がオンラインで開始されました。5月下旬に首都圏でも緊急事態宣言・自粛の解除がなされました。しかしながら新型コロナウイルスについては細心の注意が求められます。学生の皆さんには、キャンパス再開のときまでは、どうかご自身の健康と安全を優先して授業に集中してください。新型コロナウイルスによる事態の根本的な終焉にはなお少し時間がかかるでしょう。大学では、今後の事態の変化に即応しつつ6月中旬には、春学期後期そして秋学期の授業や催しのあり方を決めていきます。

緊急事態宣言は、歴然とした効果がありましたが、人との接触を避けよという事態は、他者との間柄を生きている人間の本来的あり方を毀損しかねないものもあります。関係的存在という人間の本来的あり方とは何かを反省的に考えさせる好機もありました。

学びも、教師及び仲間とともに学ぶという関係的意味と、他方で、学んだことを一人で考え深めるという個人的側面があります。オンライン授業も対面授業とはその形は異なりますが、その両側面をもっており、その意味では、対面授業と変わりはないといえます。教員との共同作業であるという点は対面授業以上の意味をもつ部分もあり、キャンパス再開後の授業のあり方に、また私たちの学びのあり方に大いに益する部分もあるはずです。

今回の事態は、現象としてまさにグローバルな問題ですが、単にグローバリズムがもたらした厄災とみなすことや、原因を地域の特性に帰し、国籍や人種の差別を助長するようなことは、わたしたちの勝利を遠ざけ、大変危険なことがあります。その解決にはグローバルな協力関係が是非とも必要であり、グローバルな視点とローカルな視点との協力なしには、克服できません。この事態を皆さんとともに、正しく希望を抱きつつ克服していきたいと思います。

(原稿執筆／2020年5月25日現在)





良知 裕美子・岡部 辰也

活躍ファイル *No.14

女子聖学院中学校・高等学校
2017年卒業
聖学院大学 児童学科 4年

聖学院中学校・高等学校
2018年卒業
聖学院大学 児童学科 3年



坂本 光生

活躍ファイル *No.15

聖学院中学校・高等学校 2018年卒業
立教大学 コミュニティ福祉学部 福祉学科 3年

みんなと合わせることで 生まれるメロディ

ら ち
良知さんが聖学院大学に入学した2017年は、聖学院大学のハンドベルクワイアは存続の危機の状況にありました。女子聖学院中学の時にハンドベルを始め、大学でもその活動を続けるつもりで聖学院大学に入学しましたが、所属していたハンドベルクワイアの部員は、入学と同じ年に全員卒業していました。そのため、良知さんが入部した時には、部員は良知さん一人だけという状態だったのです。そうした危機を乗り越えられたのは、たった一人でも続けていくと決めた強い覚悟と、顧問である本田晃先生の支えのお陰だと言います。3年生の時は代表を務め、ずっとハンドベルクワイアを引き立ててくれた良知さんも、もう今年は4年生になりました。

1年後輩で2018年に入学した、現在3年生の岡部さんは聖学院中高の出身。中高では物理部、写真部、自動車研究同好会に所属しており、ハンドベルは大学に入学してから始めました。奏でる音の美しさに魅かれてハンドベルクワイアに入部し、ハンドベルによって音楽を好きになり、オルガンも習い始めました。

音楽は人の心を癒してくれます。音色の美しいハンドベルならなおのこと。「ハンドベルは一人で鳴らすだけではメロディになりませんが、みんなで音を合わせることで音楽となります。」と良知さんは言います。音楽は希望を生みます。新型コロナウイルス感染拡大の状況下で残念ながらハンドベルクワイアも活動を制限されています。しかし、ハンドベルの美しい音色が、私たちに希望を与えてくれる時間がすぐにはまた取り戻される日を信じて待ちたいと思います。

(取材日／2020年4月)

「いつも喜び、すべてに感謝」 の言葉を胸に。

「印象に残っている授業は小瀬淳先生の世界史です。リズムが良くて楽しい授業で、勉強の仕方を教わっただけじゃなく、人間的にも成長させてもらいました。」と野球部出身の坂本さん。高校時代の思い出を懐かしそうに語ってくれました。野球部では副キャプテンで、主に四番を打ち、ショートを守っていました。野球部顧問の磯貝創一先生は、浮き沈みの激しい坂本さんの性格を見抜き、うまくのせながら、伸び伸びと野球をさせてくれたのだそうです。坂本さんが高校2年生だった2017年は、全日本大学野球選手権大会で優勝するなど立教大学野球部の活躍は目覚ましく、選手たちが楽しく野球をしている姿に感動し、どうしても立教で野球をしたいと思ったのが進学のきっかけ。入部当初は甲子園で活躍した選手が何人もいて、こんなすごい人たちの中でやっていけるのか心配になりましたが、昨年、夏のキャンプでは努力が開花し、キャンプMVPを獲得。Aチームのオープン戦にもベンチ入りしました。肩や、股関節のけがに泣かされるなど、決して順風満帆なわけではないですが、野球ができること、打席に立てることに感謝して、いつも前向きに頑張るのは、聖学院野球部の「いつも喜び、すべてに感謝」という教えのお陰だと言います。家族や友人や、多くの人に応援され、支えられているので今の自分がある、応援してくれる人のために頑張りたいと言う坂本さん。「今年こそは神宮球場で活躍する姿をお見せするのでご声援よろしくお願いします！」と力強い言葉を聞かせてくれました。

(取材日／2020年4月)

在校生の活躍

卒業生の活躍

まだまだあります！

Seig NEWS

学生も生徒も教員も職員も
次のステップへと
日々新しい試みをしています。

聖学院大学



「SDGs & Seig Newsletter 2019-2020」発行

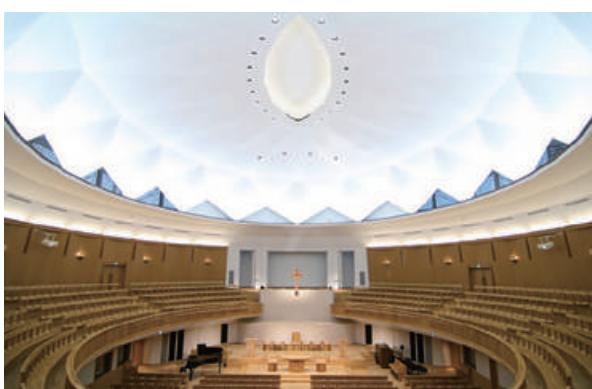
学生主体によるSDGsプロジェクトチームは、2019年12月に「食べることで子どもたちの笑顔を増やそう」と題し、学生食堂を運営する株式会社レパストの協力を得ながら、学食を食べると料金の一部が国連WFP (World Food Programme) に寄付されるアクションプランを企画・実施しました。このプロジェクトを取りまとめた「SDGs & Seig Newsletter (発行日: 2020年3月25日)」では、国連WFPおよび株式会社レパストからのコメントを掲載するとともに、プロジェクト実施後に行ったアンケート調査の結果を掲載しています。学生自らがSDGs達成に向けた企画を立ち上げ、その結果を振り返ることによって国際貢献に関する学びを深めると共に、チームワークによって目的を達成しようとするプロセスを通して「対話力・共感力・実践力」を育む機会となりました。

聖学院大学



オンライン全学礼拝を開始

聖学院大学は、5月13日(水)よりオンラインによる全学礼拝を始めました。これまで毎週火曜日から金曜日に行ってきましたが、現在はコロナウイルスの影響によりチャペルに集えないため、Facebookを活用して聖書のメッセージを配信しています。聖学院大学のスクール・モットーは、「神を仰ぎ 人に仕う」です。聖書の言葉に聞き、奨励に耳を傾け、神への祈りに心を合わせる礼拝は、本学に関わる全ての方々にとっても精神的な休息の場であると共に、生きる力を鼓舞せられる時もあります。



学校 法人 聖 学院



UNGCウェブサイトにて 理事長メッセージ配信

国連グローバル・コンパクト (UNGC) は、SDGsをはじめとする国連の掲げる目標の達成に向けて活動を推進しています。UNGCは「CEOs Taking Action: Call for Video Submissions」と題し、コロナウイルスの影響下にあって各会員組織が取り組みをシェアし連携を深めることを目的としてリーダーのメッセージ動画を配信するウェブサイトを立ち上げました。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (UNGC) 会員である聖学院は、本学院での教育の取り組みについて、清水正之理事長によるメッセージを配信いたしました。



Seig NEWS

聖学院中学校・高等学校



オリジナル授業動画900本!! オンライン授業スタートから1ヶ月半

聖学院中学校・高等学校では4月13日（月）からオンライン授業が開始されました。先生たちの驚異の機動力で、スタート時にオリジナルの動画が100本用意できましたことが話題となりましたが、さらに授業動画は週に100本以上のペースで追加されて、5月下旬には凡そ900本の動画が揃いました。本数が多いだけではなく、動画一本一本のクオリティの高さも特記すべきことです。オンラインの授業が成功するには、生徒の能動的な姿勢と主体性が求められますが、こうした先生たちの熱意のこもった動画の数々は、きっとそれを支えるものとなっていると思います。



女子聖学院中学校・高等学校



「学びを止めない」つながるオンライン授業展開中

休校中も生徒が学校とつながり、学び続けるために4月13日（月）からオンライン授業を行っています。女子聖学院では全校生徒と担任、教科担当者とGoogle Classroomを使ってつながり、朝はまず礼拝動画の配信、その後4時間～6時間の授業を受け、その日の課題を17時30分までにClassroom内に提出する、というサイクルで行っていました。授業動画による学習は、「分からないところを繰り返し見直せる」などの利点もあり、ほとんどの生徒たちが「主体的に課題に取り組めた」とアンケートで答えています。授業だけでなくGoogle Meetを使っての個人面談、クラス交流なども行われ、教師と生徒がつながり続けることができました。6月1日（月）に行われた中学入学式では、初めて女子聖学院の夏服に袖を通し、全員揃ってこの日を迎えることができました。多くの方のお祈りに支えられたことを感謝申し上げます。



聖学院中学校・高等学校



海外大学への進学者

Z世代の活躍の場は世界へと広がっています。新型コロナウイルス問題もそうですが、これからの時代の社会課題解決にはグローバルな視点が必要不可欠です。聖学院中高の、この春卒業の113回生からは、アメリカのペンシルバニア大学、ワシントン大学、南カリフォルニア大学、カナダのトロント大学、中国の北京外国语大学など、海外の大学に15名が進学。海外の難関大学進学への取り組みとしては、TOEFLやSAT対策、エッセイ指導、出願サポートなど、高3学年担当教員、英語科ネイティブ教員、国際教育部が全力でサポートしました。



聖学院小学校



みんなの作品集

新型コロナ感染拡大のため、緊急事態宣言が出され、聖学院小学校は3月から休校となりました。自分や家族の安全を守ることはもちろん、たくさんの隣人の安全を守るために、児童たちには我慢をして家にいてもらっています。そうした中で実施しているのが聖学院小学校のホームページでの「みんなの作品集」の企画。児童たちが作って送ってくれた感性豊かな作品の写真をホームページで紹介しています。「イースターエッグ」をモチーフにした作品やバラエティに富んだ「こいのぼり」などのたくさんの作品が掲載されています。

4 聖の良い物語を
みんなに

カテゴリー

- お知らせ
- スクールニュース
- 入試・説明会情報
- 先生のことば
- 聖小こどもニュース
- 卒業生・後援会
- PTA活動

月別アーカイブ

月を選択

5年生 作品集2

2020/05/20 [スクールニュース]

5年生は、トイレットペーパー芯を使った工作と、変わり紙に挑戦しました。

可愛いキノコの家。お弁当に使うカッパーで屋根を作っています。

これはこれは。タヌキの帽子と猫の帽子が勢揃い！

いいなあ。気持ち良さそう！

かくように作られています。色々表情もびったり！

チャッピーはダックスフンドかな。お家もとても良くできています。

可愛いタコ君。足が筒管にカールしています。

3歳で歌っているみたい。

聖学院小学校の制服です。とっても良くできています。

これは！次の機会が来ますもすて！ナイスアイデア！

聖学院幼稚園



ようちえんのおともだちへ

聖学院幼稚園も、コロナ禍で休園を余儀なくされています。可愛い園児たちと少しでも早く、幼稚園で会いたいという想いから、聖学院幼稚園は、休園が決定した4月初旬よりホームページで「ようちえんのおともだちへ」を連載しています。今年から入園の園児は、残念ながらまだ全く幼稚園に通園できていません。そこで、園内の遊具や「としょコーナー」の絵本をテーマとしたクイズなどを載せて幼稚園を紹介しています。一時も早く幼稚園の日常が戻り、園児たちの元気な姿で幼稚園が賑やかになることを待ち望んでいます。

4 聖の良い物語を
みんなに

カテゴリー

- お知らせ
- 幼稚園だより
- 入試・説明会
- 先生のことば

月別アーカイブ

月を選択

ようちえんのおともだちへ4

2020/04/20 [幼稚園だより]

きょうはまたあめどり。ようちえんのおともだち。おでんにせんせいなく、せんせいにすごしていませんか？ うんどうにぴったりしたクイズのこたえを新しいえます！

こうそりとシャーはー。

この黄色いロディーちゃん！

こんなところに！

幼稚園の正門の一

こんなところに！

圣学院の壁面はー

ちゅうじゅうも嬉しいヒッキー競争

年少組の壁面にてー

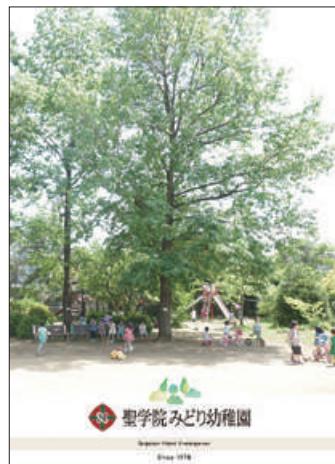
テーブルの上のお皿がミッキー

聖学院みどり幼稚園



新パンフレット完成

聖学院みどり幼稚園の新しいパンフレットができあがりました。幼稚園の日常がとてもわかりやすくまとまっており、すっきりとしたレイアウトで制作されています。パンフレットには、一年を通して、遊びを中心としながら、園児たちがのびのび生き生きと過ごしている姿が描かれています。また、今年、WEBサイトもリニューアルしました。緑豊かな環境の良さがビジュアルを通して伝わってきます。新しいパンフレットとWEBサイトで、みどり幼稚園の良さをより多くの方々に知っていただけるのではないかでしょうか。



聖学院みどり幼稚園

Seisen Midori Kindergarten

Our Mission

キャリアサポートセンター
(大学キャンパス・キャリア支援課)



キャリアサポートセンターは、学生の卒業後の進路を一緒に考えるセンターです。履歴書、エントリーシートの添削や面接練習の他、個々の悩みや不安に対して相談に乗っています。その他に年間100回を超えるガイダンスを企画運営し、企業開拓、来校企業の対応や求人票整理なども行っています。学生の進路は就職だけではなく進学や留学と多岐にわたります。学生自身も目標がはっきりしているケースからそうではないケースまで様々です。今まで歩んできた人生と一緒に振り返り、一人ひとりにあった進路を模索しつつ、学生自身が納得して意思決定できるようなかかわり方を大切にしています。

最近「ブラック企業」「サービス残業」などの言葉の影響で学生も働くことに対するポジティブな印象を持ちづらくなっています。しかし世の中には生き生きと仕事をしている大人がたくさんいます。活躍する卒業生との交流など社会と接点を持てるガイダンスや企画をさらに増やしていきたいと思っています。またキャリアサポートセンターは学生にとって身近な仕事の現場です。働くことにポジティブなイメージを持ってもらえるよう心がけて働いています。

学生は成長につながった経験やしっかりした価値観に基づく発言をしても、その素晴らしさに気づいてないことが往々にしてあります。その時「なぜそう思ったのか」「どうしてそれに興味をもったのか」などの質問を周りが投げかけてあげると本当に好きなことや得意なことに気づき自信を持ちます。キャリアサポートセンターが接するのは学生のごく一部の時間です。学生の自己実現のため、普段の学生生活から大学全体で一人を育むサポートがしていけたらいいですね。

(取材日／2020年3月)

Our Mission

1. 学生一人ひとりの進路実現をサポートする
2. 学生が社会を知る機会を作る
3. 学生の進路実現のために課員も研鑽を積む



●STAFF

吉岡国明・寺嶋健一・山田真・松村正・
柳淵まどか・松尾俊一・矢嶋恵・
久井香代子・波多野恵子

●オフィス

大学2号館 1F

1000円からの スマホでらくらく スマート募金！

もちろん
PCから
でもOK！



寄付サイトに
今すぐアクセス！



在校生の活躍や最新の学校情報を掲載した学院広報誌（ASFニュース）をご覧いただけます。左のQRコードか、下記URLよりアクセスください。

<https://www.seig.ac.jp/asf/>

聖学院 ASF



スマート募金で、聖学院の在校生を応援しよう！

寄付したお金は
何のために
使われるのかしら。



寄付は
いくらから
できるの？



自分の好きな
時間に寄付できれば
便利なんだけど。



聖学院在校生の
教育や設備充実に役立てられます

一口1,000円から
ご寄付いただけます

スマホ（PC）なら、
24時間OKです



寄付のお申込み
「インターネットからのお申込み」
をクリック

寄付手続開始にあたって、メールアドレスを入力してください
ご指定のメールアドレス宛にメールが送信されます。
※携帯電話のメールアドレスを指定することが可能です。
※ドメイン指定受信を設定されている場合は、@kifu-i-regi.comをドメイン指定受信に追加登録してください。

メールアドレス (例)	<input type="text"/>
確認用メールアドレス 確認用メールアドレス 確認用メールアドレス	<input type="text"/>
<input type="button" value="次へ進む"/>	

自分のメールアドレスを送信



インターネット納付用URLが
届きます

寄付に関するお問い合わせは【学校法人聖学院ASF事務局】へ

TEL 03-3917-8530



日本の技が、
日本の誇りを創る。

YANAGISAWA URUSHI SAXOPHONES ヤナギサワ 美しい音への挑戦

すべてを原点からみつめ、すべてに頂点をきわめた。
渾身の次世代WOシリーズ。さらに、新たな世界へ。

世界に類のないカーヴドソプラノは、より繊細な響きを。
定評あるバリトンは、さらにまとまりのある深みを実現。
ソプラノ、アルト、テナーに、この新登場2機種を加え、
シルヴァー製WOシリーズ5機種フルラインナップ、好評発売中!



WO
タブルオー
SERIES
原点から、頂点へ。

Curved Soprano Saxophones	
SC-WO37	¥1,120,000(税別)
Soprano Saxophones	
S-WO3	¥650,000(税別)
S-WO37	¥870,000(税別)
Alto Saxophones	
A-WO37	¥980,000(税別)
Tenor Saxophones	
T-WO37	¥1,120,000(税別)
Baritone Saxophones	
B-WO30BSB	¥1,740,000(税別)

製造元
柳澤管楽器株式会社
<http://www.yanagisawasax.co.jp/>
発売元
1945年創業 楽器・楽譜の総合卸商社
株式会社プリマ楽器
〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-1-8
Tel. 03-3866-2215 / 03-3866-2210
<http://www.prima-gakki.co.jp/>

WO SERIES FULL LINEUP

庭師の技が冴えるガーデン

<http://www.obazouen.co.jp>



当社に伝わる伝統・技術・技能を社員一人一人が發揮し
よりよい仕事をより安くお客様にお届けいたします

株式会社 大場造園

〒168-0064 東京都杉並区永福2-47-12
TEL 03-3321-8688 FAX 03-3325-5329
ISO9001・2015認証取得

THE QUALITY GRAPHICS

上品、シンプル、
スタイリッシュなデザイン

ポスター／チラシ・DM／ロゴ／web／
UI／パッケージ 他

株式会社 キュー・ジー

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-1 203
phone : 03-5341-4179 <http://qgp.co.jp>

株式会社 聖学院ゼネラルサービス

学校法人聖学院が設立した株式会社聖学院ゼネラルサービスは聖学院全学校の保険、物販、教科書販売を行っています。2020年度より、学校法人聖学院事業課が運営します。

SGS
Seigakuin General Service Co.,Ltd.

さいたま・上尾キャンパス
聖学院大学購買部／ヴェリタス堂書店



駒込キャンパス

聖学院中学校・高等学校購買部／聖学院小学校 ロバの店／女子聖学院中学校・高等学校 教科書・副教材・電子辞書等

学校専用モデルのカシオ電子辞書を販売しています。

CASIO



高校生モデル

AZ-SX4500edu 30,000円

AZ-SX4750edu 31,000円

AZ-SX4900 35,000円

大学生モデル

AZ-SX9800 37,000円

第2外国語アプリ

3,870円／1か国語

お問合せは

聖学院ゼネラルサービス 聖学院大学購買部・本社まで
電話 048-725-1781 E-mail sgs@seigakuin-univ.ac.jp

ひとつまみの幸せ。

なとり

なとりから新しいタイプのチーズのおつまみをお届けします!

不思議な新食感
チーズ好きのための
濃厚チーズ

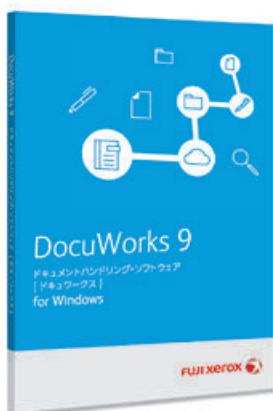
Puffed, soft cheese with a rich taste

おつまみはイヨードナ

好評発売中! 株式会社なとり 東京都北区王子5-5-1 www.natori.co.jp



電子文書と紙文書を
一元管理。



ドキュメントハンドリング・ソフトウェア

DocuWorks 9

国内販売累計600万ライセンス達成

富士ゼロックス株式会社

www.fujixerox.co.jp/

富士ゼロックス埼玉株式会社

www.fujixerox.co.jp/stx/



ありがとうを届けよう



東京本社 〒123-0872 東京都足立区江北3-3-22

TEL03-3890-6666(代)

埼玉営業所 〒334-0001 埼玉県川口市桜町1-11-37

TEL048-281-5533

川口センター 〒334-0062 埼玉県川口市桜木242

TEL048-282-8889



住宅設備と空調を通して、
お客様との『信用』を
しっかりと積み重ねてまいります。



おかげさまで設立50年



伊豆商事株式会社

空調・住宅設備総合商社

〒130-0023 東京都墨田区立川3-4-6

e-mail: izu_info@izus.co.jp

Web: <http://www.izus.co.jp/>

営業所案内

東京営業部(首都圏G・城東・大塚・調布)
埼玉(草加)・千葉・市原・佐原

聖学院大学教育支援会議 幹事



安全 × 快適 × 省エネ。建物経営のパートナー



鹿島建物総合管理株式会社

<https://www.kajima-tatemono.com/>

本 社: 〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-1クイーポビル TEL.03-5228-5151

支 社: 首都圏中央/首都圏東/首都圏南/東北/関東/横浜/中部/関西/中国/九州

営業所: 北海道/新潟/四国

練習生募集中!!

※キャンペーン中につき、詳細はお電話でお問い合わせください。

プロ・アマチュアボクサー志望、プロライセンス取得、体力作り・健康維持、ダイエット・シェイプアップ、ストレス・運動不足解消…あなたの目的にあったトレーニングができます！

女性ひとりでも安心☆ 気軽にエクササイズ♪



聖学院を応援しています

金子ジムの金子兄弟は聖学院中学高等学校の卒業生会長の健太郎(右)は73回生、マネージャーの賢司(左)は76回生
中央は世界スーパーフライ級チャンピオン清水智信

 **金子ボクシングジム**
KANEKO PROMOTION CO.,LTD. KANEKO BOXING GYM

住所／東京都世田谷区北沢1-45-23

電話／03-3460-8353

Coca-Cola®

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 <https://www.ccbji.co.jp>

COCA-COLA EAST JAPAN Co., Ltd. (コカ・コーラ指定会社) Coca-ColaはThe Coca-Cola Companyの登録商標です。

通信コスト削減、業界初の
回線管理業務コンサルティングシステム

「回線秘書」

特許第4868263号

豊富な経験と実績、高い技術力で
トータルにサポート

ナースコール 電話設備 ネットワーク
監視カメラ 施工 保守 コンサルテーション



情報と通信の
電通工業株式会社

〒140-0011 東京都品川区東大井5-11-2

TEL. 03-5479-3711 (大代表)

<http://www.dentsu.ne.jp/>

PC.NET

情シスのお困りごとは
すべて私たちにお任せください
ご面倒な IT 機器の管理業務を大幅に軽減いたします



<http://www.prins.co.jp>

株式会社パシフィックネット

本社：東京都港区芝 5-20-14 三田鈴木ビル 6F

☎ 03-5730-1441 営業時間 9:00～17:45 (祝日除く)



証券コード3021



ISO9001/ISO27001

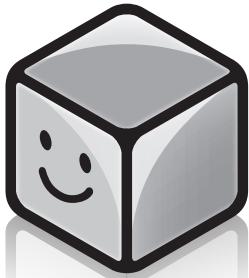


EJ506864/ISO14001
(本社・東京TC)



TDS9075

皆さんに笑顔と豊かさをお届けする
“グッドスマイルメディア”
を目指して



つくる、
つなぐ、
かなえる

Good Smile Media

総合印刷・マルチメディア・オンデマンド印刷・広告代理業

望月印刷株式会社

望月印刷

〒338-0007 さいたま市中央区円阿弥 5-8-36 TEL.048-840-2112

入学前から就職準備まで
ICTによる基礎学力強化なら
お任せください。

LINES

学ぶチカラを、未来のチカラに

ラインズ株式会社

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-20-15 高田馬場アクセス4F

電話 : 03-6861-6200 FAX : 03-6861-6006

<http://www.education.jp/>

ヤマ産業株式会社
教育備品総合商社

学びの場づくりの一翼をなって、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

学校用品
黒板・スクリーン
各種特別教室

スチール・木製家具
OA事務機器
視聴覚設備
図書館設備
室内装飾



〒112-0015
東京都文京区目白台3-26-8
TEL : 03 (3941) 7258
FAX : 03 (3943) 3826

「温かくおいしく安全な給食を」
株式会社アイコーメディカル

〒485-0803 愛知県小牧市高根1-200
TEL 0568-78-0966 FAX 0568-78-0977
<http://www.aiko-medical.co.jp>

有限会社 香山壽夫建築研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷2-12-10
TEL 03-3815-4702 FAX 03-3815-6434
<http://kohyama-a.co.jp/>

廃棄物を生かす力ー白井グループ
白井エコセンター株式会社

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目10番14号 ばんだいビル3階
TEL 03-3897-1327 FAX 03-3857-0237
<http://www.shirai-g.co.jp>

株式会社東京アドエージェンシー

〒106-0032 東京都港区六本木7丁目15番7号 新六本木ビル4F
TEL 03-5771-6817 FAX 03-5771-6829
<https://www.tokyoad-ag.co.jp/>

日勝スポーツ工業株式会社

〒154-0005 東京都世田谷区三宿2-36-9
TEL 03-6805-2106 FAX 03-3410-7314
<http://www.nissho-sports.com/>

有限会社日東クリーンベスト

〒114-0002 東京都北区王子5-20-18-505
TEL 03-3914-1168 FAX 03-5390-2309

株式会社NON

〒114-0002 東京都北区王子2-22-7
TEL 03-6903-3040 FAX 03-6903-3041
<https://www.non-co.com/>

室 内 装 飾

株式会社 フタバ アイディ

〒116-0012 東京都荒川区東尾久1丁目22番5号
TEL 03-3809-5505 FAX 03-3893-9530

株式会社防災整美

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町6-5岩清日本橋ビル7F
TEL 03-5695-1781 FAX 03-5695-1785

聖学院小学校 女子聖学院 制服指定店

株式会社ヨシザワ

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目4-15 八重洲通ビルディング 9F
TEL 03-3271-4996 FAX 03-3281-8331
<http://www.yoshizawa-uni.co.jp>

ASF関連冊子広告掲載にあたってのご案内

広告掲載を募集しております。詳細はお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

学校法人 聖学院 広報センター

〒114-8574 東京都北区中里2-9-5

Tel 03-3917-8530 Fax 03-5907-7034 E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

Onagawa ファクトリー × 学校法人聖学院

非売品



プレゼント対象
寄付期間

2020年4月1日～
2021年3月31日

ここでしか手に入らない
お箸に【SEIG】刻印入り！



ASF*へのご寄付が年間合計1万円以上になると
聖学院オリジナルお箸＆箸置きが届きます

*ASF（オール聖学院フェローシップの略で、聖学院全体の後援組織）



Onagawa ファクトリーとは？

心込めた、物づくりの結晶。

仙台の家具デザイナー工藤さんと友人の湯浅さんが立ち上げ2011年5月から女川の魚倉庫を工房として使わせてもらいたいOnagawa ファクトリーは生まれました。制作の中心はいくつもの工程を経て作られる木工キーホルダーのオナガワフィッシュ。2020年度は、その工房で制作されたお箸に、聖学院ロゴを印字していただきました。Onagawa ファクトリーでは、プロフェッショナルな物づくりへのこだわりと、心を込めた手仕事が木工芸品としての質の高い商品をつくりだしています。

学校法人聖学院は、東日本大震災を覚えて
復興に向けた取り組みを応援しています



寄付からプレゼント到着までの流れ



QRコードからも
寄付サイトへ
アクセスできます

【ご注意】

- * プレゼント対象寄付期間 2020年4月1日～2021年3月31日
- ・対象期間中1会員あたり1度に限りプレゼントをお贈りします
- ・「個人」として寄付された方がプレゼントの対象になります
- ・商品の色は写真と異なる場合がありますのでご了承ください

聖学院オリジナル箸＆箸置きに関するお問い合わせ先 【聖学院広報センター】TEL 03-3917-8530 pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

TOELL

pure
Hawaiian
WATER

Pure Hawaiian Water 320mL PET Bottle



Bottled in Hawaii
TOELL U.S.A. Nimitz Factory



Pure Hawaiian Water starts as rain filtered through porous volcanic rock for 25 years, collecting in natural Artesian aquifer 200 meters deep within the Ko'olau Mountains. From this pristine source, Pure Hawaiian Water is born.

Toell USA delivers safe and pure water to you that is filtered through reverse osmosis. Enjoy the clear and smooth taste of Pure Hawaiian Water.



フリーダイヤル
0120-15-7777

コールセンター受付時間 9:00~19:00(年中無休) 株式会社トーエル 東証一部 3361 横浜市港北区高田西1-5-21 www.toell.co.jp



EPISODE #9

聖学院歴史探訪

#9 聖学院教育の精神

-中心志向と上昇志向-



「男子の聖学院は1903(明治36)年創設の聖学院神学校に始まり、1906(明治39)年に聖学院中学校が開校されています。女子聖学院は1905(明治38)年に婦人伝道師養成の神学校として出発し、1908(明治41)年に普通学部(当時の高等女学校)が併設されました。つまり、男女両校とも、神学校として出発したのです。キリスト教伝道の担い手を養成することが、創設者たちの教育目標の中核であったのです。この事実に着目することが聖学院精神を理解する鍵であります。学院の創設者たちが伝道者養成から着手したということは、第一に彼らがキリストの弟子をつくる(伝道)にはそこから出発しなければならないという中心志向を持っていたということであり、第二にできる限り高度の教育を施したいという上昇志向を持っていたということを意味しています。男女両校とともに普通中等教育へ手を広げてゆきますが、それも神学教育という高い中心を目指す準備作業であったのであります。」

出典:聖学院キリスト教センター編『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラル・サービス,2006年版より抜粋

学校法人 聖学院

理事長／清水 正之 院長／山口 博

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-8351

ホームページ <https://www.seig.ac.jp/> E-mail pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

■さいたま上尾キャンパス

聖学院大学

・政治経済学部／政治経済学科 ・人文学部／欧米文化学科 日本文化学科 児童学科 ・心理福祉学部／心理福祉学科
学長／清水 正之 創立／1988年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-781-0925

聖学院大学大学院

政治政策学研究科／文化総合学研究科／心理福祉学研究科
創立／1996年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 Tel 048-780-1801

聖学院みどり幼稚園

園長／山川 秀人 創立／1978年
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820 Tel 048-622-3864

■駒込キャンパス

聖学院 中学校 高等学校

校長／角田 秀明 創立／1906年
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1 Tel 03-3917-1121

女子聖学院 中学校 高等学校

校長／山口 博 創立／1905年
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-2277

聖学院小学校

校長／佐藤 慎 創立／1960年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1 Tel 03-3917-1555

聖学院幼稚園

園長／佐藤 慎 創立／1912年
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2 Tel 03-3917-2725

●インターネットでの寄付のお申し込みについて

クレジットカード(VISA、MasterCard)をお持ちの方は、お申し込みから入金までご自宅等で、PC、スマートフォン、携帯電話からインターネットによるお手続きができます。下記URL、QRコードにアクセス下さい。

<https://www.seig.ac.jp/asf/>



住所変更・お問い合わせは下記までお願いします。

学校法人聖学院ASF事務局 Tel 03-3917-8530